

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	一橋大学
拠点のプログラム名称	ヨーロッパの革新的研究拠点
中核となる専攻等名	法学研究科公共関係法専攻
事業推進担当者	(リーダー) 山内進 教授 外19名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>本研究教育拠点の主要目的は、増大化しつつあるEUの重要性とそれにもかかわらず「ヨーロッパ」という視点を貫いた社会科学的総合研究拠点が皆無に近い状況に鑑みて、「衝突と和解」を切り口にヨーロッパ研究の新たな学術的進展をめざすことである。ヨーロッパをめぐる4つの領域研究グループを形成すると同時に、「衝突と和解」に関する4つの領域横断的な研究課題を年度毎に設定し、この二つをマトリックス的に組み合わせて研究を行う。本拠点の目的は次の点において革新的である。第1に、非ヨーロッパ圏でのヨーロッパとの相克を含む、グローバルな視点からのヨーロッパ研究である。第2に、国別、時代別の個別的ヨーロッパ研究ではなく、総体としての「ヨーロッパ」概念に社会科学の視点から焦点をあてる。第3に、ユーロ・グローバリズム(ヨーロッパの経験、EUの実験の普遍化)の概念を提示し検証する。第4に、「衝突と和解」という焦眉の問題をヨーロッパ中世にまで遡り、歴史的視野から検討する。本拠点は、ヨーロッパ研究の第一人者と「衝突と和解」に関するリーダー的研究者によって構成され、ヨーロッパ研究の古典資料が充実し、アジアで初のEUIJ(EU Institute in Japan)幹事校としてEU研究・教育の中核となる一橋大学の研究・教育環境を活用し、世界的拠点を形成する。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p><コメント></p> <p>ヨーロッパをEU中心に全体として纏めてとらえ、ヨーロッパの過去の衝突と和解の経緯からの知恵を描き出し、その知恵から、ヨーロッパが生み出す国際関係への影響を多面的に検討するという研究には、今までに見られない革新的な内容がある。覇権を外部に求め、内部でも紛争を激化させたヨーロッパ近代史の研究者も結集して研究体制を充実させ、その成果を若手研究者に伝達することを望みたい。</p>	
<p><革新的な学術分野であるポイント></p> <p>ヨーロッパ研究を、内部の歴史的展開・EUの拡大と、アメリカ・イスラムという外部との関係を「和解と衝突」という視点から統合的かつ領域横断的に行う点で、従来のヨーロッパ研究を超えた革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。</p>	